

～TY の短歌紀行 満腔春意編～

まだまだ寒い日が続きますが、皆様、如何お過ごしでしょうか。
中国では古代より、「春夏秋冬」、それぞれの季節に色を纏わせました。
「青春」「朱夏」「白秋」「玄冬」…
「玄（くろ）き冬」に在りながら、再び「青き春」を探しに参りましょう。

素餡餃に
壬生菜切り餅
かしはの身
煙花（えんか）遙けし
一味少なし



名古屋市南区鳴尾に私達夫婦が頻繁に通う「うどん 天鼓」さんがあります。数あるメニューの中、「ハリハリあられうどん」が私の最近のお気に入り。中に入る具材は歌中の通り。（実際は、壬生菜ではなく、「水菜」です…）お好みで「柚子胡椒」を用いると味のアクセントとなり、より刺激的です。

道元の「正法眼藏」の中に「煙火稀なり 一味少なし」という一文あり。
「炊飯の煙の立つことは稀であり、副食物の品数も少ない」との意味です。
禅宗の修行僧における食生活の慎ましさを表現したものです。
この語調に惹かれ、そのまま「煙花遙けし 一味少なし」と変化させました。
「桃の花が春靄に溶け込む美しい季節は、まだ先なので、
この度、一味唐辛子の投入量は控えめにしておこう」との歌意です。

今朝つきし
三つ指を以（も）て
父（かぞ）と飲む
氷解の春
グリーンアラスカ



氷が解けることを日本語では、「解氷」とも、「氷解」とも言います。
「解氷」という表現は単純に「氷が解けること」を指します。
比して「氷解」はその意味に加えて、「蟠りが消える」という含みを持つ。

私には女兄弟や、娘はおりません。父娘の確執等、よく理解していません。
故にこの歌は、「私の空想の中のそれ」ということになります。
結婚というものは、「頑ななものを解く効果」があるのかもしれません。
しかし、その根底に流れるのは「自身を育んでくれた父への感謝」…
「素直につけた三つ指」と「父と共にカクテルグラスを傾けている指」…
その一致が、カクテル「グリーンアラスカ」のように「春」を告げます。

「冬にありながら、春を探している」、そんな短歌仲間を募集しています。